

ブータン王国

—北朝鮮との若干の比較—

日本大学 川口智彦

*本報告は学術的、公的な資料に基づくものではなく、報告者の旅行中の見聞に基づくものである。
なお、執筆の過程で案内人とのメールのやり取りで確認した部分もある。

基本情報 (位置)



Source: The World Factbook, CIA, <https://www.cia.gov/the-world-factbook/>

基本情報（諸指標）

- ▶ 面積：38394km²、 埼玉県とほぼ同じ（人口750万）
- ▶ 人口：876181人（2023年推計）、 和歌山県と佐賀県の中間
- ▶ 民族：Ngalop 50%、ネパール 35%、土着あるいは移民 15%
- ▶ 言語：ゾンカ語（国語）、地域別に複数の言語、英語による教育
- ▶ 宗教：仏教 75%、インド・ネパール系ヒンドゥー教 22%

1. 北朝鮮研究者がブータン渡航の理由

- ▶ 大学から「海外派遣研究員」のおこぼれ支給（8月末）。
- ▶ 北朝鮮は渡航不可
 - ・ 訪問時期までに外国人旅行者の本格的な受け入れを再開していない。
 - ・ 日本政府の「渡航自粛」を理由に大学が渡航を制限。
- ▶ 行き先で迷う
 - ・ 指定された期間に、支給される資金を成果的に執行できる国
 - ・ 北朝鮮研究と何らかの関連がある国
 - ・ 研究費では金額的に渡航が困難なキューバ、タンザニアなども検討
 - ・ 「案内員付き観光」が義務化されている点で北朝鮮と同じで、渡航費用が極めて高額のブータンに決定。

2. 渡航準備（北朝鮮旅行と同じ）

- ▶ パッケージ旅行のみ
 - ・ ブータン旅行を扱う日本の旅行社に希望訪問地などをリクエスト
 - ・ 日本の旅行社は、ブータンの現地旅行社と調整をする
- ▶ ビザが必要：旅券のコピー、証明写真、手数料でeビザ発行
- ▶ 職業等による旅行制限はない（日本が敵対国の北朝鮮と違う）
- ▶ 渡航経路：直行便はない
 - ・ 日本→北京→平壤
 - ・ 日本→バンコク→パロ（ブータンの国際空港所在地）
- ▶ お金さえあれば両国共に快適な旅行ができる。

3. 旅行準備（割安編）

- ▶ 案内員に直接連絡をする
- ▶ 案内員の銀行口座に送金
- ▶ 間に入る旅行社に支払う手数料を省ける
- ▶ 案内員との信頼関係が重要なので初回は不可
- ▶ 朝鮮の案内員からも類似した提案があったが、連絡が不可か極めて困難
- ▶ 今回の費用：
 - ・ 羽田→ソウル→ハノイ→バンコク→ブータン→バンコク→羽田
 - ・ ブータン滞在10日間
 - ・ ソウルとハノイの宿泊費別途で約100万円

4. ブータン旅行が高い理由

- ▶ 持続可能な開発料金（Sustainable Development Fee, SDF）：
 - ・ 65USD → コロナで収入減 200USD → 観光客減 100USD（1人・1日）
- ▶ 国定の1日の1人あたり最小旅行費用（Minimum Daily Package Rate, MDPR）：
 - ・ SDF、宿泊、交通手段、案内員を含む
 - ・ 250～290USD → 廃止
- ▶ しかし、旅行会社は寡占状態（あるいは認可制）と思われ、料金の大きな引き下げはないものと思われる。
 - ・ 個人旅行の平均的1日の費用：450～600USD
- ▶ 観光はブータンにとって重要な収入源。
- ▶ 北朝鮮も「朝鮮国際旅行社」による国定価格。（内訳は不明）

5. ブータン旅行の形態

- ▶ 日本で紹介されている
 - ・通常の観光：ブータンの観光地は基本的に仏教関連施設
 - ・トレッキング：日帰り～27日コースまで
- ▶ 日本で多分紹介されていない
 - ・フィッシング・ツアー
 - ・カヤッキング・ツアー：インド人が好むと
 - ・バードワッチング・ツアー：欧米人を多く目撃
 - ・自転車ツアー
 - ・オートバイ・ツアー：欧米人のグループを目撃
- ▶ 北朝鮮は通常の観光の他に登山、マラソン、サイクリング、田植え体験など



6. 案内員

- ▶ 案内員は国家資格と定期的な研修が必要
- ▶ コロナ前は3000人だったが、観光客の減少で今は2000人（資格保有者であるが、活動中であるかは不明）
 - ・案内員はオーストラリア、米国、カナダに移民、現地では家事手伝いなどに従事
- ▶ 案内員は専門の語学がある：英語、ヒンディー語、欧州の主要言語、中国語、日本語、ロシア語等、ただし英語は基本で誰でもできると思われる。
- ▶ 男女比では圧倒的に男性が多い。ただし、女性も増加中と。
- ▶ 案内員は基本的にフリーランス。報告者の案内員は仕事がないときは家で農業に従事と。
- ▶ 案内員の数
 - ・案内員 1 人、運転手 1 人（ブータン）
 - ・案内員 2 人、運転手 1 人（北朝鮮）



7. 旅行の自由度

- ▶ 予定されたコース以外では自由
 1. 予定日程開始前と開始後はどこに行こうが自由。
 2. 案内員に観光客の監視義務はない。
 3. 案内員は必ずしも客と同じホテルには宿泊しない。
 4. 観光客の安全には配慮。
 5. 宗教施設などでのルールはアドバイス。
 6. 観光客のリクエストを叶えようと努力してくれる。
- ▶ 北朝鮮の場合、1～3はブータンと反対。4～6は同じ。ただし、5は写真撮影に関するアドバイス。



8. 接待員（ウェイトレスなど）

- ▶ ブータンでは、一般人との会話は自由、しかし…
 - ・ どの国であれ、知らない人に突撃取材などできない。
 - ・ 言語的限界、英語能力に大きな格差
- ▶ 案内員、運転手以外で話しやすいのは、接待員
 - ・ 夕食を兼ねて客は飲みながら話せるから気軽になれる。
- ▶ ブータンも北朝鮮も同じ
 - ・ 中国にある「朝鮮食堂」の接待員は概ね友好的
 - ・ 高麗ホテル（平壤）のカラオケの接待員は一緒に歌うだけ
 - ・ ブータンのホテルの接待員は概ね友好的



9. ティンブーの接待員Aさん

- ▶ 農村出身（豊かな家庭ではない）、20歳、高卒
- ▶ 家庭環境の問題（DV）
- ▶ 高校時代の給食：茹でたジャガイモと生のキャベツ（豊かな家庭の子は弁当持参）
- ▶ 高校卒業後、「志願奉仕隊」に約2年
 - ・ 寄宿舎で生活、様々な奉仕活動に従事
 - ・ 貧困家庭の子女のための社会保障システムとしても機能か
 - ・ 北朝鮮の「青年突撃隊」と機能的に類似か
- ▶ 首都ティンブーのホテルに接待員として就職
 - ・ 低賃金、社宅で生活
- ▶ 新物のワラビ1束が「170円もしたけど買った」と話していたのが印象的。



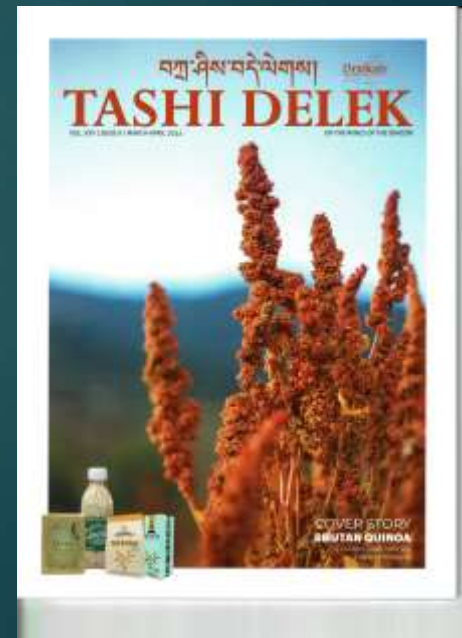
10. 僧：もう一つの社会保障システム

- ▶ 子供（男女共）を僧にする家庭がある。
 - ・ 仏教国だから
 - ・ 貧困家庭で養えない子供を僧にする。
- ▶ 寺院で共同生活（生活費は無料）
- ▶ 僧を止めるのは簡単ではない（罰金制度があったような…）
- ▶ 輪廻転生で過去の偉大な僧の生まれ変わりと認定されることも。



11. 「世界一幸福な国」の人民生活 1

- ▶ 税金はある（「地上の楽園」北朝鮮には「税金はない」）
- ▶ 医療は無料、ただし、医療施設の数や質は不明
- ▶ 教育は無料、ただし、高校からは競争制度（成績が悪いと有料の私学へ）
- ▶ 大学の数は少ない（数校？）、しかも自然科学系ばかり。
- ▶ 人口の70%は農民、残りは公務員、私企業の社員は少ない。
- ▶ 公務員の志願者は多数→仕事が楽（私企業もそうかもしれないが）
- ▶ CIA “THE WORLD FACTBOOK” より
 - ・ 実質GDP(PPP): 96億ドル(2019)、90億ドル(2021)、DPRK 40億ドル(2015)
 - ・ 同年1人あたりGDP(PPP) : 12500ドル、11600ドル、DPRK 1700ドル



12. 「人民生活」 見た感じ



13. 「人民生活」 聞いた感じ

- ▶ 道路管理人：悲惨に見えた家族、写真を撮り忘れた、北朝鮮物なら「内部流出映像」として悪用必須
 - ・雪の翌日、道路脇の補修工事をする
 - ・車を止めて、女の子のキャンディーを与える
 - ・1家族で道路9km区間の管理を担当、平時は清掃、補修が必要な場合は補修をするのが仕事。
 - ・月収、約40000円
 - ・住宅費は無料
 - ・農業との兼業も

14. 「人民生活」 農民

- ▶ 朝ミルクを売る
 - ・ 約1400円、夕方採乳する分は自家用
- ▶ 村にできた牛乳加工工場
 - ・ ヨーグルトやアイスクリームを生産
 - ・ 優秀そうなマネージャー
 - ・ アイスクリーム輸送の問題
- ▶ 道路インフラは北朝鮮より良い
 - ・ 鉄道がないから



15. インドとの経済関係

- ▶ 輸出の94%(2019, CIA)がインド向け
 - ・水力発電による電力（それでも停電、送電設備の不備）
 - ・農産物（特にジャガイモ、ジャガイモへの作目転換）
 - ・有機農業も
- ▶ 輸入の85% (2019, CIA)がインドから
 - ・食品：菓子類、野菜、その他
 - ・自動車：自家用車（インド製スズキ軽）、トラック、バス
 - ・化石燃料



16. インド首相モディ訪問 (3月22日)

- ▶ 天候の影響で1日遅れてブータン訪問
- ▶ 3代目国王の時代からインドとの関係強化
 - ・ 妻がシッキム出身
- ▶ 4代目も5代目も国王はハンサム
 - ・ 2代目の妃の顔を遺伝
- ▶ インドとの国境付近に「特別行政地域(SAR)」
 - ・ 5代目国王、2023年12月17日のナショナル・デー演説で (機内の冊子)
 - ・ インドとのさらなる関係強化
 - ・ インドへの依存のしすぎを心配する声も
- ▶ 北朝鮮は中国とロシアでバランス



17. ブータンにおける日本

- ▶ 日本・日本人の印象は極めて良好
 - ・ ODAでの援助の成果
 - ・ 農業での成果、海外技術協力事業団（現JICA）の故西岡京治氏の活躍
 - ・ ブータン農業の機械化、段々畑を平らな畑に
 - ・ 橋の建設
 - ・ 日本人は親切（観光できるのは金持ちが中心だから？）
- ▶ あまり好まれていない国の人々
 - ・ 中国人 チベットの問題などで微妙な感情
 - ・ インド人 自分勝手
 - ・ 中国人とインド人 ゴミをやたらと捨てる



17. ブータンの国会

▶ 二院制：

- 国民議会、National Assembly of Bhutan（主） 47議席、任期5年
2つの主要政党（与党PDP、37議席と野党BTP、17議席）で構成
その他、議席のない政党は3つ
- 国民評議会、National Council of Bhutan（副） 25議席、任期5年
地方選出議員が20名、国王が5人を任命

▶ ある食堂の経営者の夫が政党の副代表の話

- 2022年に新政党を立ち上げるも選挙で勝てず。
- 地域主義で国が分裂（「大韓民国」のように…）
- 南部での得票率で勝敗が決まる。
- 統合を目指して新党を結成したと。

18. 国王・仏教・政府の一体化

- ▶ 国王は直接政治に関与
- ▶ 仏教（高僧）が仏教的見地から国王に助言（しているようだ）
- ▶ 行政機関は寺院と一体化している



19. 尊敬される神と人々

- ▶ 釈迦：インドで修行をした初代釈迦、蓮の花での生まれ変わり、未来の生まれ変わり
- ▶ ペマ・リンパ（国祖）：通称「髭さん」、どの寺にも銅像や絵画がある。
- ▶ 国王：
 - ・ 初代と2代目は今一つ、高税などの悪政で不評
 - ・ 3代目はインドとの経済関係樹立で好評
 - ・ 4代目は、早く父親を失うも活躍、南部の反乱を平定で好評
 - ・ 5代目は、「親近なる」王様として好評、コロナ発生時の生活保障政策も評価

20. 人民に愛される国王

- ▶ 国王や国王一家の写真はあちこちに
- ▶ 国王バッジを着用している人も
- ▶ ブータン王国の実態を見ると北朝鮮のバッジも肖像画も意味が分かる。



21. その他のブータンの話

- ▶ dprknowを参照（dprknowで検索すれば出てくるブログ）

2024/04/25
18:36

北朝鮮報道で書かれないこと (dprknow.jp)
北朝鮮の政治、経済、社会、文化、防衛、そして韓国、中国、国際関係、軍事、科学技術

プロフィール



Author: 川口 健児
「私は、やばい成長するオッサン」

ブログの基本用語:
「元帥様」=金正恩朝鮮労働党委員長(上の絵の人物)、2010年12月20日から『最高領導者同志』とも呼ばれる
2021年1月11日から『総書記同志』
「富強様」=金日成主席
「啓蒙様」=金正日総書記
「政治局換装様」=金日成(元帥様)の妹)、2018年2月11日から『第1副部長同志』とも「白狼の血統」=金一哲
「大元帥様」=「首領様」と「丹

子宝の神様: 霊の子供のかは永遠の魂、2024/03/29追記も (2024年3月18日)

ブータンから贈呈された軍用元帥様が初めて公務に使ったという「(第1)副部長同志」の「談話」も出ているが...

ブータンには野菜がたぐささんお、4時ごろになるとあちこちで吠えまくるので目が覚める。あたりはまだ暗く、フクロウのような鳴き声も聞こえる。そもそも日本と3時間時差があるから、こちらの4時は日本で目が覚める時間でもある。

18日は、子宝の神様、ドゥクパ・キムレイが祀られているデム・ウナムというお寺に行った。この神様、はちまのちまで面白い。正確な伝承と異なるかもしれないが、お寺の語の方が分かりやすく、面白かったので右れる前に書いておく。

デム・ウナム寺



Source: 2024/03/18

ブータンの携帯電話: 2つの会社のSIM、スマホの普及率、資費電子決済、中台対立、全裸踊り、警官の仕事、離婚率、マスク (2024年3月29日)

ブータンに行く前に経由したソウル、ハノイ、バンコクでは、AMAZONで購入した韓国SIMと東南アジアSIMを使った。ブータンでも使えるSIMは売っていてもその値段も高かったので買わなかった。日本で旅行を手配した旅行社の話では、「イモトのWiFi」が比較的に頻がるとい話だったが、これも高かったのでもめておいた。結局、ブータン到着後、パロ空港でブータンのSIMを購入することにした。

パロ空港には、SIMを販売している店が並んで2軒ある。ブータンテレコムとTashiceという2社であるが、ブータンテレコムの窓口には客がいたので、客がいないTashiceのSIMを購入することにした。ネット接続に使えるギガ数や使用期間、通話回数などにより何種類かのSIMが売られているが、私の場合10日間の滞在だったので、インターネット無制限、通話20回、使用期間2週間分SIMを1900ニュルタム(ブータンの通貨単位)で購入した。今のレートでは約3500円になる。

